

小遊星寫真觀測近況

現今、小遊星を觀測して居る所は世界中で、約二十箇所程ある。下に其の箇所及び使用機械等の一覽表を掲げる。

場所 (天文臺)	機 械	F 數	焦點距離	撮影視野	發 表 最少光度	觀 測 者	備 考
ハイデル ベルヒ	cm cm cm 40, 40, 70	5, 5, 3.8	m m m 2, 2, 2.81	6°×7°, 2°3×1°7	15等, 16等	Reimnuth Mündler	cm 70口径は反射鏡
シメリス	12, 12	5? 5?	0.6? 0.6?	約10°×10°	14.2等	Neujimin	
ユクル	30	5	1.5	9°×9°	14.0等	Delporte Arend	レンズはペツバ ル
ユニオン	25	4.5	1.125	15°×15°	15.0等	Jackson	カメラは有名はフ ランクリンアダ ムのカメラである 例の天體寫真カ メラである
アルジェ ール	34	10	3.43	2°以内	15等	Boyer, Reiss	此の外34cm F10 のものあり。精 密觀測に用ふ
ベルゲド ルフ	34, 34	5.5	1.5, 1.5	數度平方	15.0等?	Schwassmann Wachmann	精密觀測に用ふ
ヤーキ ース	60	4	2.4	2°位?	16等	van Biesbroeck	機械は反射鏡
バルセ ロナ	16	5	0.8	數度平方	13等位	Comas Sola	
ブカ レス ト	38	15	5.7	2°位?	12等	Dinulescu, Popolici 等	
ワシ ント ン	25, 25	11.5	2.87	4°×5°	12等?	Peter	レンズは三枚玉
トリ ネセ	20	5	1.0	9°×12°?	13.5等	Volta 等	
キ ン	33	10	3.43	2°以下	12.5等	Reimer	
ゾ ー ゼ	40	17	6.90	2°?	11等	Villemarqué	
花 山	11	4.5	0.5	10°×10°	12.5等	柴田 淑次	
神 戸	15	5	0.7	10°×10°	12.5等	射場 保昭	
須 磨	13	4.5	0.6	6°×6°	11.5等	改發 香場	
島 (静岡)	8	4.5	0.36	6°×6°	11等	清水 真一	

此の外 Madrid, Budapest, Loyel, Wiesbaden 等の天文臺が、時折、發表する事がある。又、東京天文臺も曾つては盛んであつた。

最近の情報によれば小遊星の番號は1301番に達した。今年新しく發見された小遊星は今迄に百數十箇に達する。其中大部分はドイツのラインムト氏と南亞のジャクソン氏の發見である。此れ等は夫々60箇乃至80箇のものを發見して居る。此れに次いで多いのはユツクルのデルポト及びアイランド氏で總計30箇餘りの發見がある。他は數個に止まる。

發見される小遊星の光度は最大約13等星であつて大抵は14等級のものが多い。故に小遊星を發見するにはレンズの口径として25糎又は其れ以上のものが必要である。11等級の小遊星の發見は皆無であつて12等級のものは非常に稀である。花山の11糎三枚玉では1.25等の小遊星は快晴の夜良コンディションの時に辛じて撮れる。

小遊星の軌道の計算は、ドイツ計算局の定期發表の外に、臨時に回報に掲載される。Kahrstedt, Hiller, Gondolatsch 等の諸氏が屢々改良軌道を發表して居る。此等の改良軌道が發表されて居る小遊星の觀測は特に望ましいのであるが、其の光度は、大體、13等又は其れ以下である。此の爲めにも是非25糎以上のレンズ又は60糎級の反射鏡が欲しい。今年發見された小遊星の中、軌道の計算されて居るものは50個位で残り100個餘りは觀測の爲し放しである。唯一回しか觀測されなかつたものは100個近くもあるから軌道を出す事が出来ない。(尤も極く粗雑なものは辛うじて得られる)軌道の計算の方は現在計算者の不足で困つて居る状態にある。

小遊星の光度の觀測は、近頃、あまり行はれて居ない。併し、最近(323) Brucia の變光が問題になつた。即ち各年の衝に於ける光度を觀測して見ると、其の絶對光度が變化すると云ふのである。此れを機會に適當に小遊星の光度觀測が行はれる事が望ましい。

(附記)總べての小遊星を觀測する事は、現在の狀態では甚だ困難である。故にドイツ計算局では特に觀測の望ましいものを指摘し天文臺の位置と機械に應じて此れを各天文臺に割當てて居る。其の天文臺は、ハイデルベルヒ、ユツクル、ユニオン、ヤキース、シメスである。日本は位置としては申分ないがたゞ機械が少さいが故に此の仲間はずれを喰はされたのは返す返すも残念である。